

社寺名 <sup>あが</sup>英賀天満宮 (兵庫県姫路市広田区北野町)

奉納者 廣畑邑 總右衛門

奉納年 不明

### 解説

司馬遼太郎の祖父が奉納した算額についての記事が、2002 (平成14) 年2月8日 (金) 付け朝日新聞に掲載されていた。愛媛和算研究会では、その算額についての資料を収集したので、ここに紹介する。

祖父の算額は現存していないが、田中政信撰『奉懸算法』(1873 (明治6) 年) に記録が残っている。この書によると、算額の冒頭に「所懸当国英賀天満宮五事」とあり、「英賀村梅沢門人」の5人が奉納した算額で、第3問を奉題した人物が「広畑村總右衛門」である。この「總右衛門」が司馬遼太郎の祖父惣八である。

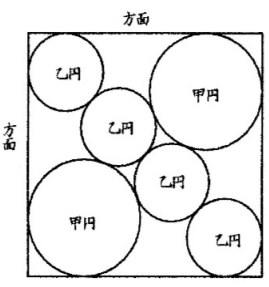
司馬遼太郎の随筆には、「無類の珠算ずきで、ついには和算までやりだし、ソロバンで開平開立を解いたりした」祖父惣八の話が載っている。「ある明治の庶民」

また、惣八は広畑の生まれで、広畑末広町の宮本太十郎に算学を修め、明治前は「惣右衛門」であったという(「私の播州」)。

右の問題は、和算の基本問題である。『奉懸算法』には、「術曰」以下が誤りであることを書き添えている。正しくは「術曰置二個開平方加一個三之各極加一個開平方倍之以減極餘乘乙径得甲径合問」である。

なお、『奉懸算法』については、和算・珠算研究者山本一郎氏の優れた研究論文「英賀郷の算家」

(1968 (昭和43) 年) がある。

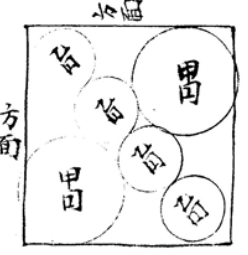


今有如圖方面内容甲圓  
二個乙圓四個只言乙圓  
径一寸問甲圓径幾何  
答曰 甲圓径一寸四分有奇  
術曰置乙二個開平方乘乙得甲  
圓径合問  
同門人廣畑邑  
總右衛門術之

### 《問題文》

図のように、正方形に内接する甲円2個、乙円4個が互いに外接している。

乙円の直径が1寸であるとき、甲円の直径の長さを求めよ。



右ノ術ヲ見ルニ人ニ誤リテ直ノ甲径ヲ石得故  
ニ改正之シテ如左  
術曰置乙二個開平方乘乙得甲  
圓径合問 同門人廣畑邑  
總右衛門術之  
今有如圖方面内容甲圓  
二個乙圓四個只言乙圓  
径一寸問甲圓径幾何  
答曰甲圓径一寸四分有奇

『奉懸算法』(1873 (明治6) 年)